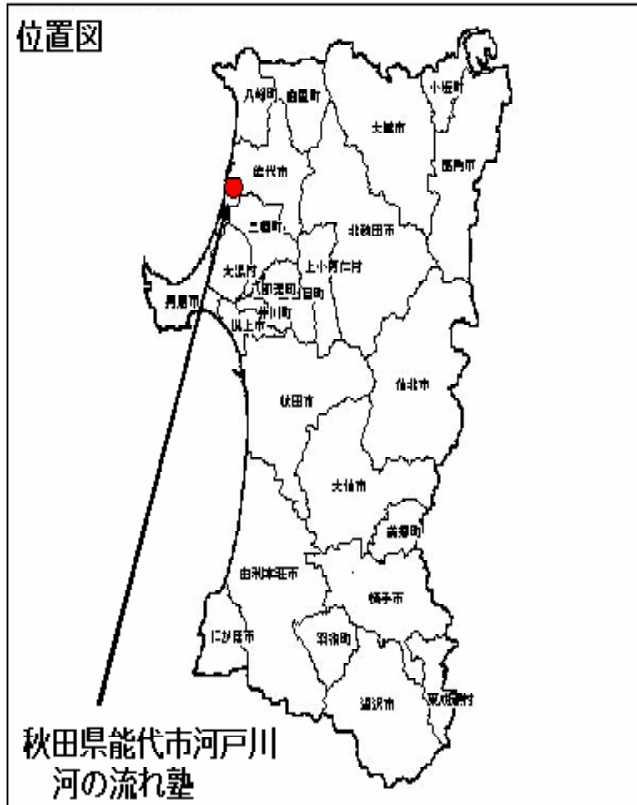


平成 17 年度農林水産大臣賞（東北ブロック最優良事例）

秋田県能代市河戸川

「河の流れ塾」



地区の概要

事 項	内 容	
地区の規模	集落	
地区の性格	都市的農業地域	
農 家 率	(内訳)	41.3%
	総世帯数	155戸
	農 家 数	64戸
販売農家数	(内訳)	59戸
	専業農家	15戸
	I 兼農家	16戸
	II 兼農家	28戸
主要作物 ()内産出額	水 稻	(163百万円)
	ね ぎ	(164百万円)
	キャベツ	(54百万円)
農用地の状況	耕地計	197ha
	(内訳)	
	田	137ha
	畑	60ha
	耕地率	73.0%
	農家一戸当たり農用地面積	3.1ha

【むらづくりの経緯・動機等】

- ・ 河戸川地区は米とねぎなどの野菜を組み合わせた複合経営が盛んな地域。
- ・ 高齢化や主力作物の野菜価格の低迷により生産活動が停滞、混住化に伴い住民間の連帯意識が希薄になるなど諸問題が顕在化。
- ・ これに危機感を持った後継者世代が地区の将来について問題提起し、各農業組織で議論が活発化。その結果、地域農業を 3 K 農業（汚い・危険・きつい）から 3 C 農業（Clean = 人や環境にやさしい農業 Clever = コストを意識した効率的な農業 Comfortable = ゆとりのある農業）に転換し、次世代に引き継ぐため、30～50代の担い手農家11人が「河の流れ塾」を平成7年に設立。
- ・ 平成8年、塾が中心となって地域農業の振興方策「河戸川地域農業ビジョン」を作成し、取組を本格化。

【推進体制】

- ・ 塾は稲作、畑作、大豆部門から成り、土地利用型作物の集約や余剰労働力を活用した野菜栽培の拡大など地域農業ビジョンの実現に向けた取組を展開。

【生産面における寄与状況】

- ・ ミニライスセンターを整備、水稻や転作大豆の作業受託組織を立ち上げ、高齢農業者や兼業農家の作業を請負うなど、土地利用型作目の経営を確立するための取組を展開。
- ・ 農地集積により、塾構成員の経営規模及び収入が大幅に増加。(約11ha、約21百万円)
- ・ 特産のねぎなどを販売する直売所を平成12年に開設、出店者(52名)のうち9割以上を女性・高齢農業者が占める。学校給食への食材提供などの地産地消やトレーサビリティ、エコファーマー認証への誘導の取組により販売実績が年々向上。

【生活・環境整備面における寄与状況】

- ・ 非農家との交流を目的に農作業体験や直売所の特売を実施。
- ・ 各種イベントの企画・運営のため農家と非農家の協力組織を設立、イベントを通じ地区の一体感を維持。
- ・ 若年層の流出等により途絶えていた地区の祭りを復活。



塾構成員4名が補助事業を活用して建設した「河の流れ 主力作物のねぎのは場。年間販売額は約1億6千万円
塾ライスセンター」



塾構成員10名の出資により開設された直売所「ねぎっこ村」の出店者52名中9割以上が女性・高齢者、各自が少量多品目の農産物を持ち寄り販売、収入確保に繋がっている。